



第 3 号

2012年3月15日



岡山歴史研究会 ホームページ を開設しました

岡山歴史研究会のHPを開設しました。インターネットで岡山歴研のHPを見てくださ。い。ブログ形式で、つぶやきや投稿ができるHPです。

会員相互の情報交換、他の歴史関連団体へのリンク、行事紹介、会報紹介、会員の出版本や歴史関連文章、エッセー等を紹介します。

スピード感があり、様々な活動が可能です。ページ数の投稿制限はありません。研究された成果を簡易な方法で情報発信できます。修正も容易です。多くの人に知ってもらいたいという課題をお持ちの

方、類似テーマで研究してい

る人がなかなか見つからない悩みをお持ちの方、HPに記事を掲載しませんか。新たな繋がりが見つかるかも知れません。同好の方の記事にコメントすることで、相互に刺激し合う良い関係を築きましよう。気づかなかった歴史研究と新たな繋がりを作るきっかけを提供できると期待しています。

HPの管理、運営は事務局並びにICT委員会で行います。ぜひ、記事に感想(コメント)を寄せてください。

<http://b.okareki.net/>

平成 24 年度定期総会のご案内

日時 4月30日(祝日) 受付12時30分
場所 山陽新聞さん太ホール

- 受付 12時30分 ●総会 13時～
- 記念講演 13時45分～
- パネルディスカッション 15時～
- 参加費 無料(一般の方の参加歓迎)

定期総会

平成23年度の事業報告、決算報告並びに、新年度の事業計画、予算(案)の審議

記念講演

「もう一つの平家物語
～安徳天皇は生きていた～」

講師 能勢初枝氏(岡山歴史研究会運営委員、次ページに講師紹介)

パネルディスカッション

「哲人山田方谷を語る」

コーディネータ

渡辺道夫氏 山田方谷に学ぶ会代表世話人、元岡山県立美術館副館長

パネラー

田中里味氏 山田方谷研究コーディネータ、ジュエリータナカ常務取締役

網本善光氏 山田方谷に学ぶ会会員、横溝正史研究家

加古一朗氏 山田方谷に学ぶ会会員、高梁市歴史美術館主任(学芸員)

歴研 展望

先月の日本三大奇祭の一つ西大寺会陽を経て、備前平野に春が来ました。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

岡山歴史研究会は今年で三年目を迎え、現在会員数も二二九名になりました。

昨年は、皆様のご尽力により全国から三百名ものご参加いただいた全国大会開催によって、岡山歴研の地歩を固める画期的な年になりました。

新年度の事業計画としましては、定期総会ではパネルディスカッションと記念講演の二本立て。また好評だった探訪会を年三回予定しています。そして県内の歴史関連団体のデータベースの作成を各団体の協力を得て取り組む予定です。更に会報の定期的な発行、その内容の充実を図ります。

また、ホームページを開設し、吉備の国岡山は歴史の宝庫であることを全国に向けて精力的に情報発信していきたいと考えています。

引き続き皆様のご理解、ご協力、ご尽力をお願い申し上げます。

(会長 天野勝昭)

定期総会

パネルディスカッション

「山田方谷に学ぶ会」の活動

コーディネーター 山田方谷に学ぶ会代表世話人 渡辺道夫

「山田方谷に学ぶ会」は平成九年、岡山県職員を中心に、有志が集い、立ち上げました。時あたかもバブル経済崩壊の真只中でした。翌、平成十年、冊子「山田方谷―その藩政改革に学ぶ」を出版し、希望者並びに県内の主な図書館に配布しました。

平成十二年からは「方谷カレンダー」を毎年作成し、県内外へ無償で配布しています。高梁市や新見市などのゆかりの地でのパネルディスカッションや講演会、講座等に講師、パネリスト、コーディネーターとして参加してきました。現在、会員は企業や団体、大学や高校での講師等を行っています。

平成十七年は方谷生誕二百年。高梁での記念事業「第四回全国藩校サミットin高梁」では実行委員会のメンバーとして参加し、「長瀬塾」と「藩校有終館」の模型を制作し、展示しました。また、山田方谷顕彰会と一

体となって「入門山田方谷」を出版、三島復、伊吹岩五郎の名著の復刻や、関谷学校での講義録「孟子養気章講

定期総会での講師

能勢初枝さんの紹介

能勢さんは、岡山市生れで操山高校、奈良女子大卒業。その後は関東・関西方面が長い。最近郷里へ帰ってきて、岡山歴研に参加し会報の編集などに関わっています。

関西在住中に、大阪府能勢町に伝わる安徳天皇伝承を『ある遺書』という一つの平家物語』として出版しました。それがネット上で取り引きされているということで、最近「安徳天皇伝承」として再版されました。そこで今年のNHK大河ドラマ「平清盛」にちなんで、「もうひとつ

義」の現代語訳を行い、県下の高校や図書館などに寄贈しました。

平成十九年、没後百三十年には記念事業として「入門山田方谷―至誠の人」と「山田方谷のことば―素読用」を出版し、図書館や高梁市の全小、中学校に寄贈しました。

今後も各顕彰団体と協力して顕彰活動を続けます。



▶再版された『ある遺書』

の平家物語―安徳天皇は生きていた」という講演をしてもらうことにしました。

歴史関連団体のデータベース作成についてご協力を！

これまでに県下の歴史に係わる団体のデータをまとめたものは見あたりません。が、すでに多くの歴史関連団体が活動されておられます。これを機に、県内の歴史関連団体を網羅したリストともいえるべきデータベースを作り、各団体が連携し、岡山が歴史の宝庫であることを全国に情報発信したいと考えています。

つきましては、岡山の歴史の発掘、岡山の誇り、地域の活性化のためにご協力をお願いいたします。

◎ 歴史関連団体をご紹介ください(以下は例)

★歴史愛好家団体・文化財団★観光ボランティアガイド協会★遺跡保存会★無形文化財保存団体★民俗学会・民話の会・風俗研究会★山城を守る会★古文書研究会、読む会★顕彰会★探訪会★刀剣・甲冑・鉄砲隊★職場・学校内歴史研究会★全国組織の岡山支部

◎ 調査票等は事務局で用意しております。

岩屋城を守る会

岩屋城を守る会会長 **北 恵兆**（当会会員）

津山市の西端、中北上の北方に独立した岩屋山（標高 283 m）があり、その山頂に岩屋城跡があります。室町時代、山名教清が美作の守護職を任せられ、自分の本城として築いた城跡です。昭和 43 年旧久米町より、又昭和 62 年には岡山県より指定史跡になりました。

時を同じくして 58 名の会員で「岩屋城を守る会」を発足させました。

以来、岩屋城跡の保護、管理、整備作業を始めました。初年度は城跡の草刈、登山道の整備等。続いて、馬場跡にトイレの新設、倒木の処理、戦国武将の精霊祭、紫燈護摩供養、また会員の勉強会も行ってきました。商工会主催の登山ウオークラリーは結成以来毎年行われ、地域全体での一層の保存活動が進みました。

平成八年、岩屋城の歌、続いて岩屋城音頭が会員の作詞、作曲で出来ました。初日の出詣でも毎年行われています。歴史ロマンを求めている登山者も増えてきて、サービスを考えながら道路の手入れ等に心がけるようになりました。会の活動を後世に受け継がせることの大切さを知らされ、人づくり、地域づくりに役立つことを認識しました。反面、結成以来一緒に作業をし、汗を流した会員の姿を見る事の出来ない人、身体の都合で登れない方も増え、過ぎた月日が思い出されます。天然の要害を持つ本丸に立って四方を眺める時、武士の往時が偲ばれ、城跡が貴重な財産であることを再認識するこの頃です。



▲高梁市中井町西方の『方谷園』
▼岩屋山山頂にて 紫燈護摩供養（2月15日）

備中の聖人山田方谷から学ぶ

高梁方谷会会長 **金岡 誠**（当会顧問）

岡山県中西部に位置する高梁市は備中の国を南北に貫く高梁川の中流にあり、水陸交通の要衝で、山陽と山陰を結ぶ位置であった処から、古くから臥牛山に城が築かれて、毛利と尼子の戦場として、又、関ヶ原以後は小堀遠州の時代から松山藩として明治に至るまで国の政治に関わってきた。最後の松山城主、板倉氏の七代目勝静を助けたのが山田方谷である。

山田方谷は、この地勢に着目し、陰陽を結ぶ最も重要な路線は他に無しとの発想の下に、新見を経由して米子に至る馬車道を建設した。これが JR 伯備線の基礎となった。備中高梁駅から新見方面に行くと三つ目に方谷駅がある。全国でも珍しく人名が駅名となっている。この駅から高梁川の支流に沿って高梁市中井町西方に生誕地がある。江戸末期に藩政改革を行い、莫大な負債を返済し、多額の蓄財を短期間に成し遂げ、備中松山藩を救った。国事に奔走する板倉勝静を補佐し名を残している。

明治 10 年に永眠した。その 50 年後、山田方谷を顕彰しようと組織されたのが高梁方谷会であり、その設立の檄文が残る。

「一世の碩学であり、幕末から明治初年にかけての激動期に、高梁を中心とする備北の政治・経済・教育・文化の恩人である山田方谷先生の遺徳を偲び、威風を後世に伝えん」とある。それを伝えるのが高梁方谷会で、今に続いている。



第二回 探訪会

『矢坂山』

1月7日(土) 冬日和の中、六五名で矢坂山・万成山を探訪した。矢坂山を語る会から坪井代表を始め十三名が参加、野崎講師(当会顧問)に案内をいただいた。

9時に北向八幡宮に集合し、三班に分かれ、クジラ岩→富山城跡→方位岩→魚見山、山頂にて昼食、そして、万成山登山→笑い岩→怒り岩→万成稲荷磐座→北向八幡

宮の元宮磐座→北向八幡宮と歩いた。

矢坂山、万成山からは岡山市街地を360度展望できた。

矢坂山を語る会が二年前に発足して活動を始め、二躍、岡山市民の関心の的となっている。登山道の倒木の片付けや山の清掃も進み、春にはツツジや山桜が咲き最高のハイキングコースになるでしょう。



▶北向八幡宮元宮(磐座)で記念撮影



▶野崎講師の方位岩(磐座)説明を聞く

●今後の予定●

四月十九日(木) 運営委員会
四月三十日(祝) 定期総会
五月十九日(土) 児島方面探訪会
八月一日(水) 会報第四号発行

第三回探訪会お知らせ

春の歴史探訪地 児島 紹介

春は児島地域の神社、史跡を探索する。熊野神社、由加山蓮台寺及び藤戸寺周辺。

熊野神社は修験道の総本山で、約千三百年前、役行者が児島へ上陸し、新熊野三山を開いたもの。高弟五人が五流尊瀧院など五つの寺院を建てた。後鳥羽上皇の遺骨を納めた石造宝塔は国指定文化財。また後鳥羽上皇の第四皇子頼仁親王の墓所(宮内庁管理)もある。

由加山蓮台寺は天平時代、行基が開基した真言宗の名刹。江戸時代、瑜伽大権現は信仰を集めた。明治初年、廃仏毀釈により由加神社が別れ

●会員の出版物紹介(過去一年以内)●

『知られざる古代吉備』若狭哲六著
定価2600円(税込み)

『津田永忠の新田開発の心』柴田一著
日本文教出版 定価860円+税

『沖新田・沖田神社と沖田姫』柴田一著
吉備人出版 定価800円+税

『ある遺書—北摂能勢の安徳天皇伝承』
能勢初枝著 定価1200円+税

『劇画 戦国武将・宇喜多四代—岡山城築城物語—』吉備人出版
定価1000円+税

『隈取絵師』(くまどりえし)
平茂寛(ひらしげ かん)著
朝日新聞出版 定価1500円+税

『日本国家の起源 五島列島に実在した高天原』松野尾辰五郎著
定価2500円+税

『きび考 5号』日本先史古代研究会
実費600円(送料込み)

『ちょっぴり映画 政治 奉仕』
佐藤 豊行著
定価1100円(送料込み)

詳しくは「岡山歴研」「八坂山を語る会(市久会)」のホームページを参照。

た。客殿、多宝塔は県指定の文化財である。

藤戸は源平の合戦地。源氏の武将佐々木盛綱は、馬で渡れる浅瀬を教えたくれた土地の男を切り殺して功名を立てたことで有名。その後建った藤戸寺では源平双方の戦死者を弔っている。

5月19日(土) 児島界隈を探索

行き先 児島(藤戸合戦跡・熊野神社・由加山) 界隈を探索

実施日 5月19日(土)

案内人 大島邦雄(特別案内人・当会顧問)

野崎 豊(当会顧問)

井上秀男(当会運営委員)

●おくやみ●当会顧問で高松城水攻めの研究で活躍されていた林信男さん(九二歳)が一月二十九日逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

■編集後記■第3号をお届けします。本年度の課題であった岡山歴研のホームページが開設できました。平成二十四年度定期総会は「山田方谷」を取り上げます。NHK大河ドラマ化の県民運動を盛り上げる一つになると信じています。

発行 岡山歴史研究会
代表 天野勝昭
編集長 山崎泰二
事務局 〒701-1332
岡山市北区平山844-86 山本方
電話 086・287・6226

